

今年のIMについて

中分区ガバナー補佐 芳賀 治右衛門

本当に今日は足元の悪い中、遠くから皆さんおいでいただきまして、ありがとうございます、心より感謝申し上げます

今年のIMのテーマにロータリー財団を活用しようと掲げさせて頂きました。

理由は、我々の身近なロータリー財団これを感じたいと思ったからです。



日本のロータリー会員の皆様はロータリー財団への貢献も素晴らしいと伺っております。国際ロータリーのロータリー財団、そこに寄付された全金額の9.8%・・・

(富岡委員長から教えていただいた数字ですから多分間違いないと思います)

大変高い比率で世界の中で日本人が活躍しています。この数字はアメリカに次いで2番目だそうです

なぜ日本のロータリーの会員の皆様がロータリー財団への貢献が素晴らしいのか、その理由の1つに国際ロータリーの国際ロータリーに対して大きな義理を感じているのではないかと感じております

新しい会員の皆様にはまだご存知ない方もいらっしゃると思いますが日本で最初にできたロータリークラブは東京ロータリークラブです、1920年といいますから今から93年程前かと思えますそのその1920年に東京ロータリークラブが出来まして、それからすぐ3年後に関東大震災がありました、その関東大震災の時にRI会長より2万5,000ドルの義援金を送ると言う事を即座に東京ロータリークラブに連絡があったそうです

当時の通信状態と言いますと大変ひどい物だったと思えます。それなのにわずか4日でその決断を東京ロータリークラブに入ってきたということでございます。それまでは東京ロータリークラブの皆さんは奉仕というものにはそれほど興味がなかったと言う風に言われておりますがその素晴らしい速度、そしてたくさんのお金をいただくことによって東京ロータリークラブの皆さんは本当にびっくりしたと言う風に言われております。

ただびっくりしただけではなくてロータリー財団の素晴らしさ本当に何たるかと言うものを肌で感じたと言う風に東京ロータリークラブのクラブ史に書かれているということです。

その東京ロータリークラブの流れを汲んでいる我々日本のロータリークラブ会員、その時の義理を忘れずに今、特別協力しているのかなと思えます

今日は、「身近なロータリークラブ」と言うことで富岡ロータリー財団委員長にお話を伺いたいと思っておりますので…財団は本当に身近なんだと言う事を富岡委員長より伺いたいと思っておりますのでよろしく申し上げます

委員長よろしく申し上げます。